

総則

点数配分と計算

<p>難度 (D) 加算法：2つの審判団の合計</p>	<p>芸術 (A) 最高10.00点 実施 (E) 最高10.00点</p> <p>・芸術的欠点 ・技術的欠点</p>
--	---

最終得点:
D得点+最高10.00点のA得点+最高10.00点のE得点(減点がある場合、最終得点から差し引かれる)

個人演技【得点の配点】

難度 (D) (加点)	芸術 (A) 10点満点(減点)	実施 (E) 10点満点(減点)
<p>・身体難度 (DB) 最低3個 最も高いものから7個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプへ バランス T ローテーション 〇) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って スローターンバランス ルールでも踵をついてでも最高1個 コンバイン難度は最高1個</p> <p>・全身の波動 (W) 最低2個 DB: 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って DBでない: 基礎または基礎でない手具操作は要求されない (手具は動いていること)</p> <p>・回転と投げを伴ったダイナミック要素 (R) 最高4個(実施順に)</p> <p>・手具難度 (DA) 最低1個 最高10個(実施順に) 特異な基礎手具要素 最低各2個ずつ 基礎手具要素 最低各1個ずつ</p>	<p>芸術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術的構造とパフォーマンス: 構成の目的 ・音楽規範 ・動きの特徴 ・ダンスステップコンビネーション 最低2個 ・身体表現 身体と顔の表現 ・ダイナミックな変化 最低2個 ・身体と手具の効果 ・特異な音楽と特異な動きの調和 ・多様性: 投げと受け ・空間の使用 ・統一性 ・つながり ・リズム ・音楽終了時の動き 	<p>技術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の動き ・手具の技術

【特別ルール】

- ①DBは形と手具操作が明確であればET-0.5の大きな誤差があってもETの減点を伴って有効とする。
- ②Rは投げの高さに若干の不足があっても有効とする。但し立位1.5倍を超すこと。
- ③DAは高さにも回転にも許容はない。
- ④ボールにおける片手受けは基礎手具操作の総数カウント時のみ、直立1.5倍の高さからの受けを有効とする。
- ⑤空中下における単独のDBの投げの高さに若干の不足があっても有効とする。但し立位1.5倍を超すこと。

【使用手具について】

☆リボンは5mとする

【予備手具について】

審判席		
ササキ製		チャコット製
フープ 81(白・丸形)	競技フロア	フープ 85(白・丸形)
ボール(白)		ボール(白)
クラブ(白)		クラブ(白/コーラル)
リボン6m(白)		リボン6m(白)
リボン5m(白)		リボン5m(白)

【審判構成】

- ☆全国大会に繋がる予選大会: DB2/DA2/EA4/ET4
- ☆全国大会に繋がらない大会: DB2/DA2/EA2/ET2

【その他】

- ・道内大会の化粧は認めない。
- ・髪飾りについては、高体連ルールに準ずる。
- ・レオタードの変更は2022年-2023年を移行期間とし、旧ルールのレオタード着用を認めるが、ルール変更の趣旨はあくまでも選手を守ることにあることから、あまりにもルールから逸脱したレオタードの着用は控えること。
- ・上記ルールの修正および変更又は日本体操協会による追加・変更がある場合は随時採用を検討し連絡する。